

ジョイサポコラム No.29

元野犬の保護犬との暮らし

こもれば皮膚科 高瀬 奈緒



京急田浦駅の近くで皮膚科を開業している高瀬奈緒です。2010年から2年間、横須賀共済病院皮膚科に勤務していました。その頃から横須賀市で暮らすようになり、今年で14年になります。私は子供の頃、父の仕事の都合により引っ越しを繰り返していました。大阪府で生まれましたが、3か月で埼玉県へ転居、その後和歌山県、長崎県、大阪府、東京都と移動し、小学生では4回転校しました。こんなに長く同じ土地に住むことは初めてです。コンビニまでも車を使わなくてはいけない生活に初めは戸惑いましたが、不便さもすぐに慣れて海と山が近い横須賀市が大好きになりました。ご縁をいただいて開業までできたことを本当にうれしく思っています。

今回私は我が家で飼っている保護犬について少しご紹介しようと思います。息子の情操教育のため、お留守番が寂しくないように、と犬を飼うことにしました。私は飼いやすい小型犬を考えていましたが、こだわり強めの夫が一目で自分の犬とわかる犬がいい、保護犬の雑種がいいと主張し始めました。確かに



犬一匹の命を助けることができるし、柴犬くらいのサイズなら許容範囲かな、と譲歩して保護犬を探すことにしました。保健所や多頭飼育崩壊現場などから動物保護団体が犬を引き出し、インターネットで里親募集をしていました。子犬は人気なのか想像以上に大変な競争でなかなか面談まで進めず、何度目かでやっと面談までたどり着く事ができました。保護団体さんとオンラインで細かな面談があり、山口県から来た子犬を譲り受けることになりました。山口県周南市の墓地周囲で大量に野犬が繁殖していて、2019年度は年間841頭捕獲されたとの事です。捕獲された5匹のかわいい兄妹犬の中の1匹です。極度に恐怖心が強い犬で本当に慣れるまで大変でした。自宅の敷地内から一歩足を踏み出すまで3か月かかりました。その間に体はみるみる大きくなり、大型犬サイズになりました。外に出るようになって、風の音、車の音などに反応してパニックになるのでリードを持つ手が擦り切れて、泣きながらお散歩をしていました。見かねた近所の方が紹介してくれたト

レーナーさんに来ていただき、犬との関わり合い方を教えてもらい、だいぶ付き合いやすくなりました。もうすぐ5年になりますが、困った時以外は私に寄ってくることはありません。それでも疲れた時にふわふわした毛を撫でてしていると仰向けになってお腹を見せてくれて癒されます。想像していた犬との暮らしとは違っていましたが、ご近所に知り合いが

増え、お散歩をすることで季節を肌で感じることもできるので家族になれてよかったと思っています。ただ、これから保護犬（特に元野犬）を飼おうか考える方には、子犬がどんなに可愛くても動物愛護の気持ちが強くても、熟考してから決断することをおすすめします（今でも本当に大変です）。